

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	基本的な行動	◎オリエンテーション研修 ◎ローテーション研修	◎ローテーション研修 ◎IC研修	◎IC研修 (清菌ケア・吸引・静脈採血のシミュレーション研修)	◎多慮課題 (部屋持ち) シミュレーション ◎配属決定 ◎日勤業務	◎リフレッシュ研修		◎日勤受け持ち (2～3名)	◎日勤一人立ち ◎夜勤見習い (カルガモ)	◎夜勤メンバー一人立ち		◎ラダー・ビギナー評価	
	目的	看護師としての必要な基本姿勢、職員としての在り方を知る。研修への心構えを学ぶ。	院内の病棟の特色を知る。職場環境に慣れる。	基本的看護技術を学ぶ。指導を受けながら看護実践をする。	→			配属部署の職場環境に慣れる。指導を受けながら看護を実践する。	チームメンバーとしての自覚が持てる。助言を求めながら看護実践をする。	チームメンバーとしての自覚を持ち、行動できる。		次年度の目標を明らかにする。	
	目標	自らスタッフへあいさつができる。主体的に研修に参加する。	報告・連絡・相談ができる。日勤の業務内容や流れを把握する。	業務の進行状況を報告し、必要時に援助を求めることができる。優先順位を考えながら行動できる。	病棟の特徴と日勤の業務内容や流れを把握する。	業務内の疑問をプリセプターと共に振り返り、解決する。		夜勤の業務内容や流れを把握する。業務の進行状況を報告をし、必要時に援助を求めることができる。			できるようになったことや未習得の知識・技術を明確にし、課題をみつめる	看護に対する姿勢の変化などを振り返り、次年度への課題をみつめる。	次年度の準備をする。
看護技術	環境整備		□療養生活の環境を整える □環境整備・療養生活環境調面 (病床患者・点滴ルートのある患者)	□ベッドメイキング (持続点検中の病床患者・座席のある患者・呼吸器管理の患者)									
	食事援助									□カンガルーポンプの管理			
	排泄援助	□テナー導入とその使用方法				□排尿・排便介助 (病床患者) □ボータグルトイレ介助・身体障害者トイレ介助 □浣腸・導尿・排便							
	活動休息		□体位変換				□ストレッチャー移送・車椅子移送 □歩行介助 □R・OM入浴・睡眠の援助						
	清潔な生活		□清拭・陰部洗浄・部分浴・洗髪				□入浴・シャワー浴						
	呼吸・循環を整える		□酸素療法 □吸引				□体位ドレナージ						
	与薬		□中心静脈注射の準備と介助と管理	□静脈血採血 □静脈内注射 □経口薬・外用薬・点滴・直腸内与薬 □処方箋と薬品の管理・ミキシング □薬剤管理 (麻薬・劇薬等の管理)	□抗生剤の用法と副作用 □インスリン製剤の準備と管理・輸血の取り扱い □輸血の看護		□輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い □輸液ポンプの準備と管理 □低圧持続吸引器 (ハマーサーゴ) の取り扱い						
	救命救急処置			□気管切開			□気管内挿管の準備と介助 □人工呼吸器の管理	□止血の看護					
	症状・生体機能		□バイタルサイン・パルスオキシメータ □フィジカルアセスメント			□身体測定 (身長・体重・胸囲・腹囲)							
	苦痛の緩和・安楽確保						□安楽な体位の保持 □冷電法・電電法						
	感染予防			□感染防止 (スタンダードプリコーション) □医療従事者の規定に沿った適切な取り扱い □針刺し事故防止の実施と針刺し事故後の対応	□無菌操作・消毒物の使用方法・洗浄・消毒、滅菌の適切な選択								
	安全管理				□危機管理 (KYT)	□転倒転落防止 □誤薬防止	□放射線曝露・MRI・造影剤						
	機体の取り扱い				□静脈血・動脈血の取り扱い・簡易血糖測定法 □十二誘導心電図 □心電図読取 □採尿・便・尿・排便方法と取扱い								
	その他			□看護記録		□看護必要度	□退院調整の必要性 □入院対応 □看護師による入院案内						
	院内集合研修	□看護倫理講座 □除振動 (フタダ電子)	□口腔ケア □除振動 (フタダ電子)	□人工呼吸器の準備と立ち上げ方法	□バルンカテーテル管理	□BLS	□弾性ストッキングと弾帯	□摂食・嚥下看護 □食事介助 (配下膳・座席のある患者、嚥下障害のある患者) □グリーフケア	□身体計測方法・NST □除細動 (日本光電)	□ハンドネプライザー・超音波ネプライザー	□創傷処置・褥瘡の看護		
	部署のOJT												
	評価	看護技術習得評価表 シトリシート	成長エ										ラダー評価

*研修予定は都合により変更になる場合があります